

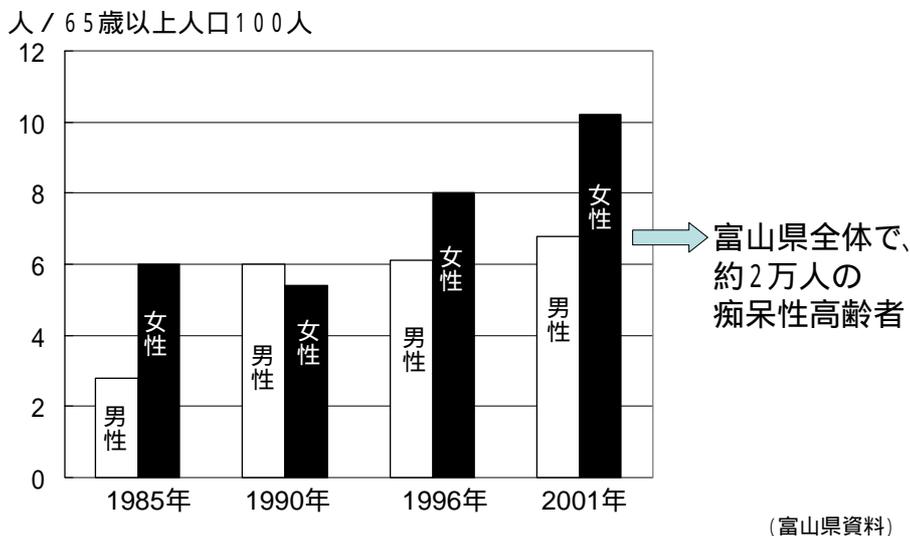
フォーラム富山「創薬」

「認知症 - 日常診療の実際」

田中耕太郎（富山大学附属病院 神経内科教授）

全国的に人口の高齢化が進んでいるが、富山県では65歳以上の高齢者の総人口に対する割合は全国平均よりも高く、2005年には22.4%に達している。さらに、下図に示すとおり、本県では65歳以上の高齢者における、認知症（痴呆）を呈する方の数は、年々上昇しており、2001年には女性は約10%、男性は約7%に達し、富山県全体では約2万人となっている。

富山県における認知症(痴呆)を呈する高齢者の推移 (65歳以上)



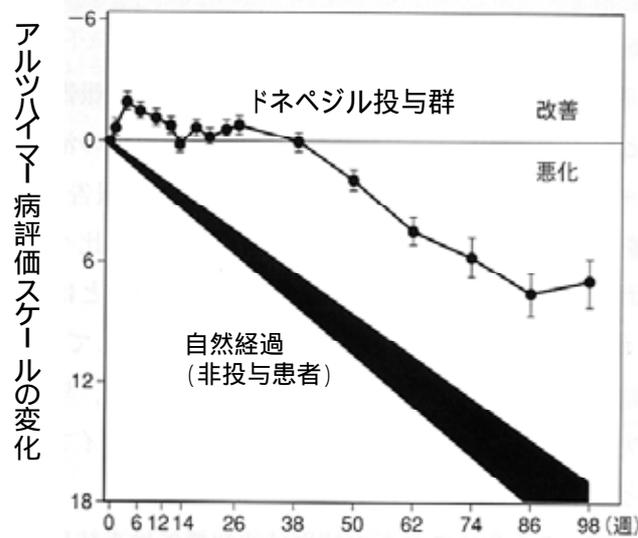
本県で認知症を呈する65歳以上の方の原因疾患の内訳は、2001年では女性の53%、男性の43%をアルツハイマー病が占め、その次に、脳血管性痴呆が女性の27%、男性の41%を占めていたが、年齢が高くなるに従って、アルツハイマー病の占める割合が高くなる傾向にあった。全国的にも近年、認知症の原因疾患の中で、アルツハイマー病の割合が増加している。

認知症の原因疾患には、上記の二つの疾患以外に、適確に治療されれば認知症の回復が可能な慢性硬膜下血腫、脳炎、脳腫瘍、正常圧水頭症、各種ビタミン欠乏症、甲状腺機能低下症など、種々の疾患が含まれるので、認知機能低下の早期発見と原因疾患の鑑別診断が重要である。認知機能低下の早期検出のために神経心理学的スクリーニング検査を行い、その結果に応じて、各種血液検査、脳波検査、頭部MRI、脳血流検査（SPECT）が行われる。最近、アルツハイマー病の早期診断に、SPECTによる脳血流低下パターンの検出が有用であるとされている。富山市では医師会が主体となって65歳以上の方を対象に物忘れ検診が今年から行われている。

認知症は、記憶障害、判断力障害などの中核症状と、せん妄、幻覚、妄想な

どの周辺症状を呈し、その各々に対する治療が必要である。アルツハイマー病の中核症状に対する治療として現在我が国では、認知機能低下にマイネルト核などから大脳皮質に投射するアセチルコリン作動神経系の機能低下が関与していることから、コリンエステラーゼ阻害薬（塩酸ドネペジル）が用いられている。しかし本薬剤は、アルツハイマー病における多系統の神経伝達物質異常の中でアセチルコリンだけを補充するものであり、病因自体に対する根本的治療でもないため、その治療効果には限界がある。下図のように、塩酸ドネペジルは認知機能障害の進行を約1年前後、遅らせるに過ぎない。新しい治療の開発が臨床現場からは切望されている。

アルツハイマー病 塩酸ドネペジル投与の認知機能に及ぼす効果



(Rogers SL, Friedhoff LT: Eur Neuropsychopharmacol 1998;8:67-75)

略歴

氏名：田中耕太郎

現職：富山大学附属病院 神経内科教授

学歴：

昭和44年3月 新潟県立長岡高等学校卒業

昭和50年3月 慶應義塾大学医学部卒業

昭和54年3月 慶應義塾大学大学院医学研究科（内科学専攻）修了

職歴：

昭和54年4月 慶應義塾大学病院内科専修医

昭和57年3月 静岡赤十字病院内科副部長

昭和57年7月 米国ペンシルバニア大学神経内科 脳血管研究センター
(Director: Prof. Martin Reivich) Research Associate

昭和60年9月 慶應義塾大学病院診療科医長（神経内科、保険担当）

昭和63年11月 水戸赤十字病院第一内科部長 兼 神経内科部長

平成3年4月 慶應義塾大学医学部内科専任講師、診療科医長（神経内科）

平成17年6月 国立大学法人 富山医科薬科大学附属病院 神経内科教授

平成17年6月 慶應義塾大学医学部内科非常勤講師

所属学会：

日本内科学会、日本神経学会（評議員）、日本脳卒中学会（幹事）

日本脳循環代謝学会（理事、編集委員）、日本神経治療学会（評議員）、日本神

経免疫学会、日本自律神経学会（評議員）、日本神経化学会、日本神経科学学会、

日本頭痛学会（評議員）、国際脳循環代謝学会、国際脳卒中学会、American Heart
Association (Council on stroke)など

専門分野：臨床神経学、脳卒中学、脳循環代謝、

資格：

昭和50年9月 医籍登録

昭和54年7月 日本神経学会 認定医

昭和56年3月 医学博士

昭和63年10月 日本内科学会 認定内科医

平成10年9月 日本医師会 認定産業医

平成15年3月 日本脳卒中学会 認定医

平成17年6月 日本頭痛学会 専門医